

ラジオとの出会い

村井忠大

僕とラジオとの出会いは1987年、10歳頃でした。父親が福引きでもらってきた赤いポケットラジオ。季節は夏に差し掛かる頃、僕の実家の長崎県五島列島は台風が来ることが多くそれによる停電に悩まされることが多々ありました。しかも長い時には2週間くらいも停電が続くことがありました。そんな時助けてくれたのがラジオ。本当に救世主でした。

野球中継は最後までやってくれるし、田舎のテレビ番組なんて12時過ぎたら終わってしまうのがほとんどだったのに一晩中やってくれているラジオ。天気や歌、笑える話から怖い話まで色々なことを聞かせてくれるラジオ。僕は子供の頃から虜でした。

島育ちはとにかく娯楽に飢えていたり、そんな物もなかったりするので想像力が豊か

で。だからこそラジオとの相性抜群だったんです。どこに行くにもラジオを持ち、寝落ちするまでラジオを聞いていました。

そんなラジオの魅力は、誰しもが思うことでしょうがリスナーとの距離がとにかく近いこと。これに尽きるのではないかと思います。

近いからこそ伝わる感情、情報、イメージ、シーン、匂いや、気温や、味だって伝えることが出来ます。そして一番の強みは災害時等に一番早く情報をくれることだと思います。更にそれに特化し、その地域の情報をポイントに伝えてくれるのがコミュニティエフエムです。ふだんその地域に慣れ親しんだパーソナリティからの信頼出来る言葉は緊急時には情報とともに安らぎも与えてくれると思います。

そんな、常に側に寄り添って、時には自分を助け励まし、気持ちを代弁してくれたり、色々なことを考えさせてくれたり、そんな素

